



甲南第一小学校だより

第一っ子



令和5年12月1日

(2023年度)

第8号

甲南第一小学校

『言葉』の持つ力

令和5年も早いもので残すところ後一月ばかりとなりました。暦の上では冬を迎え日本各地で雪の便りを耳にすることが多くなってきました。そんな寒さ強まりつつあるこの頃ではありますが、大変心温まる出来事がありました。朝、登校指導中の事です。子どもたちと一緒に学校に向かっている途中あいにく小雨が振り出しました。子どもの見送りをされていた保護者の方が、傘を持っていない私に気づかれ、そっと「傘はいかがですか？」と声をかけていただき、お家の傘を用意していただきました。地域のぬくもりに触れたようで何とも言えない嬉しい気持ちになりました。本当にありがとうございます。これから益々寒さ厳しくなってくると思いますが、どうぞ、保護者や地域の皆様におかれましても、特にウィルス感染予防に十分ご留意いただき、子どもたち共々健康に年末・年始が迎えられますようにお過ごしください。

さて、話は変わりますが、昔から日本では、言葉には神秘的な力があるとされ、「言霊（ことだま）」という言葉が度々用いられてきました。ポジティブな言葉は自分にも相手にも良い効果が、反対にネガティブな言葉には自分にも相手にも悪い結果をもたらすことが多いとされ、言葉には目に見えない不思議な力があると信じられてきたからです。本当にそうなのでしょうか？

実際に心理学の研究においても、確かに「ミスをしないうちに。」「失敗しないように。」と否定的な言葉掛けをすると、「しないようにしよう」と心理的なプレッシャーから、ミスをしたたり失敗したりするイメージが強くなり実際にそうなることが多いことが実証されています。この言葉掛けを「否定命令」と言うのだそうです。そう言えば私たち教員もごく普通に「忘れ物をしないように。」と言葉掛けをすることがありますが、逆に忘れ物をしてしまう可能性を高めてしまっているということになります。難しいことはわかりませんが、このことは、そもそも人の脳が否定語を理解できないとされているためだとか。なので、子どもたちのヒーローショーでは、否定的な言葉掛けはしないそうです。例えば、「立たないで。」ではなくて「座って見てね。」とか、「走らないで。」ではなくて「ゆっくり歩いてね。」とか。言葉掛けを変えるだけで、子どもたちの行動を変える効果がより期待できるのです。

ということで、より良い行動を促すための言葉掛けにはよくよく注意が必要です。特に子どもには肯定的な言葉掛けが大切であると言われていています。先ほどの「忘れ物をしないように。」ではなくて、例えば「明日の準備をしっかりとしてから来ましょう。」の言葉掛けが必要なのです。「言霊」の意味する通り、言葉には目に見えない力があるようです。私たち教員も普段の言葉掛けを見直して子どもたちのより良い行動や生活につなげていきたいと思っています。

言葉が変われば心が変わる 心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる

「ウィリアム・ジェームス」(心理学者・アメリカ心理学の父)



甲南第一小学校 校長 松山 辰也

やさしさぬくもり集会

本校では、毎年、「命・人権」を大切に、子どもたちの豊かな感性をはぐくむことを目的に『やさしさ・ぬくもり集会』を開催しています。昨年度までは、コロナの影響で2部に分けての開催で、全学年の発表を参観していただくことはできませんでしたが、本年度は、コロナも5類に移行したこともあり、全校の子どもたちが集って開催いたします。日時は12月8日(金)の2・3校時。各学年のテーマに沿って、みんなが幸せに暮らしていくために大切なことを発表の方法を工夫しながら発信します。何かとご多用のこととは思いますが、第一っ子と共にみんなの幸せについて考える良い機会にさせていただけたらと思います。



今年もお世話になりました

登下校の見守りやクラブ支援、学校の環境整備や研修会の開催、しらうめの発行、子どもたちの活動支援等々、地域や保護者、後援会の皆様には大変お世話になりました。これまでの制約もなくなり、より身近に温かな言葉かけや支援をいただきました。心より感謝しております。世界に目を向けますと、心痛むニュースの多い2023年でしたが、2024年が、希望に満ちた明るい年になることを願いつつ、これからも子どもたちが安心して、安全に過ごしていくことができますように変わらぬ見守りやご支援をよろしく願いいたします。



ひとみ輝く第一っ子 よく学び・心豊かに・健やかに